

間中りんぺい区政報告

20年後に向けて
板橋区の道路や
公共交通を
考える



都市建設委員会の委員長として、板橋区交通政策基本計画策定委員会に参加しました。国交省や、都の建設局の方は勿論、バス会社や鉄道会社、トラック協会、区の産業連合会や福祉関係の代表者など、普段会わない方々と共に長期的な将来を見据えた区の交通政策

の在り方を話し合いました。防災上課題となっている木造建物密集地域の解消や交通事故の減少に向けた取り組みに加えて、新たな技術や交通機関の社会実験的な取り組みも、区に働きかけてどんどんやってみたいと思います！

大山から先の
東武東上線立体化プラン

大山駅から成増までの区内全線立体化を目指すエリアごとの考え方が区の資料として初めて示されま

した。20年以内の全線立体化は困難かもしれませんが見通しは立っています。

地域からの要望が多いコ
ミュニティバス



電車站から500メートル、バス停からも300メートル以上離れている交通不便地域（前野町、中台、桜川、仲宿、稲荷台など）にお住まいの方々から、コミュニティバス運行のご要望を多くいただきます。区のコミュニティバス・りんりん号は、

国際興業バスさんにご協力いただき、不採算分を区が補填することで運用中。どうしても採算性や運転手さん不足に課題がつかまとうため、コミュニティバスに限定せず、タクシーの新たな活用など、来年度の試行を予定しています。

羽田空港の機能強化に伴い
板橋区上空が
飛行ルートに



国土交通省は、国際空港競争力の強化や訪日外国人旅行者の受け入れ、2020年東京オリンピックパラリンピック競技大会の円滑な開催のため、令和2年3月29日から羽田空港における国際線を年間3万9千便増やすことを決定、板橋区の上空約1200

メートル以上を飛行するルートが発表されました。板橋区上空を飛行するのは南風時の15時ごろから19時の間の3時間ほど。赤塚新町、前野町、小豆沢、常盤台等の上空を通過する計画となっています。

騒音と安全
国の対策は

政策的に騒音量の低い機材への転換を進めたり、新たな飛行経路付近に騒音測定局を増設、さらに世界に類を見ない高水準な落下物対策基準を国内外の航空会社への義務付けを進

めています。町会の回覧板、ポスター、チラシなど区民への情報を提供すると同時に、国による住民説明会を引き続き開催するよう議会として働きかけていきます。

1月11日（土）の朝刊に、主要6紙の朝刊で羽田空港強化に関するチラシの折り込みが行われる予定ですのでそちらもご確認ください

近々予定される羽田空港機能強化に関する区内説明会

- 1/13（月・祝） 14:00～17:00
セブントウン小豆沢 イベントスペース（板橋区小豆沢）
- 1/14（火） 14:00～17:00
セブントウン小豆沢 イベントスペース（板橋区小豆沢）
- 1/15（水） 17:00～20:00
成増アクトホール（板橋区成増）

いたばし対話プラスの
ご紹介



市民活動で地域の繋がりを作りたい。いたばし対話プラスは、地域課題や社会問題を行政任せにせず自身で解決の主体となって動き出す、「対話」を通してその第一歩を踏み出すためのきっかけ作りの場として2016年に立ち上げました。

対話の場には、区役所の職員や私以外の議員も一般参加していて、勿論誰でも歓迎です。対話の場から生まれたアクションも増えてきました。例えば「東板橋公園の子ども動物園がどうしたらもっと楽しくなるか？」をテーマに行ったセッション

では「夜の動物の生態を観察できるナイトズー」「動物園でキャンプが出来るZOOCAMP」などがアイデアとして出され、そのいくつかは区で取り入れる構想が固まり、本年の実現に向けて動いています。



4種類の事業を展開中
フューチャーセッション
多様な背景をもつ参加者の対話の場
edcampITABASHI
教育に関するテーマに特化
未来対話
専門家による講義と対話を楽しむ
いたコン
「夢」を持つ人を支え実現を応援



LINE



ホームページ



Facebook



Instagram

間中りんぺいプロフィール

- 昭和54年蓮根生まれ 40歳 家族：妻と娘（2歳児子育て中）
- 2015年初当選 現在2期目
都市建設委員会委員長、子ども家庭支援調査特別委員会理事
- ミズベリグいたばし、三田線バル、いたばし対話プラス共同代表
- ひいらぎ保育園、志村第六小学校、志村第三中学校、板橋高等学校卒業
- 5年間のサラリーマン勤務の後、スリランカ内戦地域で支援活動
- NZ留学を経て28歳で慶應義塾大学入学
（卒業式学位記授与代表生）
- ボーイスカウト板橋第四団 隊長
- 志村消防団第二分団 団員

ご意見、街のこと、住みたい街の未来像、お聞かせください
間中りんぺいは対話を第一に考えます

〒174-0051 東京都板橋区小豆沢2-21-1-201
TEL 080-3442-1520 FAX 03-6886-8417
Email rinpeimanaka@gmail.com

令和2年1月

自由民主党 板橋区議会議員

間中りんぺい

区政報告



あけましておめでとうございます。

ねずみ年は、新しい生命が種子の中で萌（きざ）し始める年だそう。私の仕事においても、これまでの慣例や慣習だけに囚われることなく、日に新たに、日に新たに、工夫を積み重ねていきたいと思っています。

保守政党、と言うと、変えない事を重要視すると勘違いされる事がありますが、そうではありません。老舗の和菓子屋に似ているでしょうか、大切なものを守りながら、「昔からのやり方」に拘らず常に時代に合わせて積極的に変化していかなければなりません。守るために変えていく、それが保守だと思っています。

去年は区議として二期目の職を頂きました。私が区議である事で、板橋区にどんな影響があるか？地域にどんな貢献が出来るか？二期目のこの4年間はより厳しくジャッジされると思います。多くの方に「間中りんぺい」と票に書いて頂いた事を忘れずに、今年も挑戦を続けます。

皆さまのちからを、板橋のちからに。“自分ごと”の区政をつくるため、この一年もよろしくお願い致します！

間中りんぺい

今回も、5つのテーマを中心に区政報告をお届けします



ボール遊びができる公園を！
板橋区の小学生が陳情



メディアに出る利点やマイナスの影響についても議論しながら取材の可否を決めました



陳情書が採択されたとの知らせを受けて子どもたちは喜びに湧きました

「ボール遊びができる公園を作りたい」と、大人を巻き込んで活動している板橋区の小学生たちがいます。子供たちは区長に手紙を書いたものの、区からの返信内容には納得できず、「議会に陳情を出したい」との事で私を含む区議3人で相談に乗りました。板橋区史上初の小学生からの陳情は、5項目中4項目が採択されました。

ところで、私がボーイスカウトで小学生の隊の隊長になった時、先輩リーダーから聞いたのが卵を暖める親ニワトリの話。

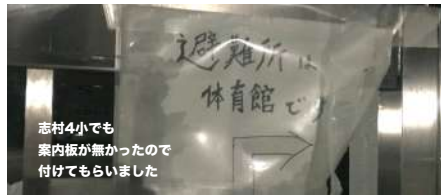
親ニワトリが卵を暖め続けて、ようやくヒナが生まれる時に、外に出る準備ができたヒナは内側から卵の殻をくちばして突きます。なかなかヒナからの反応が無い場合はどうするのか？ 親ニワトリは、それがあつことを信じて、卵を暖め続けるのだそうです。

つまり、スカウト(子供たち)に対しても、殻を彼らから突いてくるまで「待つべき」だということが教えました。そしてそのキャンプでは、「もっとこうしたら？」などと先回りすることは避け、任せることを意識しました。すると思いがけず「子どものすごさ」が見えてきたのです。子どもを子ども扱いしないほうが良いのだと気付いた瞬間です。今回の板橋区の小学生も、同じ思いで行動を見守っていくつもりです。

意思を持って過ごすのが社会人なら、小学6年生だって立派な社会人です。現役世代の社会人の意見も、高齢世代の社会人の意見も、若き社会人の意見も、同じ意見として扱って街づくりをしたなら、今より面白くなるはず。意思を持って過ごすのが社会人なら、小学6年生だって立派な社会人です。現役世代の社会人の意見も、高齢世代の社会人の意見も、若き社会人の意見も、同じ意見として扱って街づくりをしたなら、今より面白くなるはずです。

間中りんべい区政報告

昨年の台風上陸時 議員・消防団として 活動し感じた事



昨年10月12日から13日にかけて上陸した台風19号、議員としての対応を行うと同時に消防団として活動しました。区内においては大きな被害がなかったのは幸いでしたが、様々な課題に気付きました。そのひとつは避難所の問題です。

例えば志村1中では、タクシーで避難してきた妊婦さんが学校の門の前で迷っていました。校舎の電気が消えており、そこが避難所なのかどうかも分からない状況です。その場で区の職員にお願いし、校門に避難所の体育館までの案内板を付けてもらいました。

水害時の避難所を全小中学校とする事が望ましいと考えますが、区の職員が足りず、かと言って地域と町会に今以上に負担を強いることも難しい。このような避難所問題への対策として、以前から区に要望している「避難所開設キット」を各小中学校に導入したいと思っています。避難所開設キットを設置する事により、避難してきた方の中からまず動ける方が避難所をスムーズに開設、運営できるようになります。今回の対応から得た事をまとめて次回の議会質問で言及していきます。

最近災害対策研修会で よく取り上げられる 「バルナラビリティ」

バルナラビリティとは脆弱性のこと。例えば地震が起こったときに、災害対応が進んでいるA町では被害が少なくより早く「日常」に復帰が出来るのに対して、対応が遅れているB町では被害が大きく復旧復興にも大きな時間がかかる」とすると、B町のバルナラビリティは大きいと

表現できます。地震が起きても被害がなく「日常」が保たれば、「被災」もない。大きな地震や災害があっても日常と変わらぬ生活が出来るよう、バルナラビリティを小さくするにはやはりコミュニティが重要です。

2020年度から 板橋区小中一貫教育が 本格スタート



中学校へ進学するときに起こる新しい環境での生活、勉強への不安が、不登校やいじめにつながるがありました。その「中一ギャップ」と呼ばれる問題を解消するために、小中一貫教育を進めています。

板橋区ではさらに、小中9年間を通じた「(あい)カリキュラム」を作成・実践

することにより、読み解く力の育成を目指します。さらに、中学校エリア単位で、小学校を分けて「学びのエリア」を形成し、小中学校の連携を密にします。そして、児童・生徒・教員の交流を図り、学力の定着・向上、子どもの社会性を高めることに期待がかかります。



中学校に入って急に勉強が難しくなりレベルが厳しくなったりと大変かも？



義務教育9年間を通じて子どもを育てるといふ共通認識を小中一貫で共有します

時代の変化に呼応した取り組み

小学校6年制・中学校3年制が導入された頃よりも早期化していると言われる子どもの心身の発達に合わせた教育を行うことで、子どもたちがつまづく原因を少なくできるはず。また特に板橋区は全国平均、都平均と比べても中学生の不登校率が高くなっています。そしてその多くが、小6で不登校気味になった生徒である傾向があります。小中一貫教育で、不登校の生徒数を減らす事も重要です。

東京2020オリンピック 板橋区内の聖火リレー スタートは 小豆沢公園に！



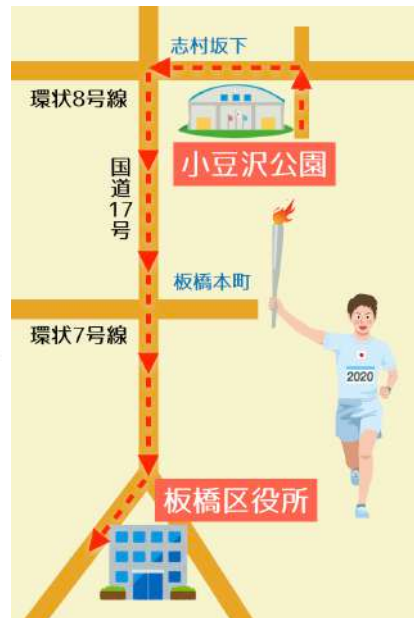
小豆沢公園はリニューアルして2020年6月オープン予定

(公財) 東京2020オリンピック・パラリンピック組織委員会から、東京2020オリンピック聖火リレーの板橋区内ルートが公表されました。

日程：令和2年7月19日(日)
出発地：小豆沢公園(板橋区小豆沢三丁目1番)
到着地：板橋区役所(板橋区板橋二丁目6番1号)

新たな小豆沢公園にはマルシェなどが開けるイベントスペースの他、志四小生徒全員に欲しい遊具のアンケートでトップだったターザンロープも設置されます。

小豆沢公園は来年6月のオープンに向けて工事が着々と進んでいます。当日は聖火リレーの出発をお祝いするセレモニーも開催予定！地域の子供達にも最高の思い出になるようなイベントにしたいと思います！



間中りんべい区政報告

ご存知ですか？ 「板橋区魅力ある個店の 連携事業補助金」 制度



今回も三田線バルで集まった募金は子ども食堂「南蔵院子ども会」へ寄付しました(今回は43,000円でした)。南蔵院子ども会の代表から「頂いた寄付はこの地域の小・中学校の来年の新入生で経済的な事情がある家庭に応援金として渡したい」と伺っています。これまでの寄付と合わせて地域の為に使って頂ければ嬉しいです。



板橋区内には魅力的な個店がいくつもあります。各店舗のやる気のある店主が連携をとり振興を図ることは地域経済の活性化に寄与しますし、街のコミュニティ強化はその地域の防災力向上にも繋がります。数年前から区に要望してまいりました区内の個店の連携による取り組みへの支援が、昨年実現しました。細かな条件はあります

この「板橋区魅力ある個店の連携支援事業補助金」を是非活用してください！例えばこんなイベントに使えます。

- ・各個店等の商品を活用した新商品開発
- ・はしご酒イベントやバル街の開催
- ・スタンプラリー・ウォークラリー
- ・各種コンテストの開催(区内パン屋でのパンコンテスト開催等)
- ・区内農家の野菜等の作物を使った新商品開発

今年度末の予算事業で、2月末までのイベントが対象です。何かアイデアがある方は申請をお早めに！



昨年10月に開催しました第5回三田線バルでは「板橋区魅力ある個店の連携支援事業補助金」を申請し使いました。三田線バルは、地域の新たな魅力に触れる食歩き飲み歩きイベントで、年々規模を拡大しています。地域の大人が地域で飲食を楽しみ、地域の子供達に還元される仕組みを目指しています。

補助金や助成金は、依存と無駄使いに繋がら可能性のある税金活用であり、注視が必要だと思っています。ただ、地域で何かが始まるきっかけは作りたいし、区として支援もして欲しい。そんな想いで実現させた補助金制度です。自分たちの街は自分たちで面白くしよう！という方が増えていくよう周知していきたいです。

小豆沢水上バス 乗り場整備中



小豆沢水上バス乗り場の水辺に集い、同時刻に大勢で一斉乾杯するイベント「小豆沢で乾杯」でお馴染みの小豆沢水上バス乗り場は現在整備中。今年4月にはリニューアルオープン予定。老朽化で地面もガタガタになっていたのを綺麗にします。床面および階段ともにコンクリートに木材を貼ったような質感の面加工をします。今年も「小豆沢で乾杯」にて皆さんにお会い出来るのを楽しみにしています！



アレルギーと アナフィラキシー対応 学校に ホットラインを



食品アレルギーの初発、その約4割が学校給食で発生しているといわれています。先生方にはエビペンの使用法など研修があるとは言え、学校におけるアレルギー対応が適切ではない、という指摘もあります。しかし「適切な対応」を学校(の先生方)だけに求めるのは負担が大きすぎるでしょう。

学校でのアレルギー対応の在り方を再考しつつ、調布市や杉並区のように板橋区でもアレルギーホットラインを設置して、学校から直接専門医にその場で相談出来る体制を整えれば、先生方は専門医の指示の下で動け、負担も軽減されるはず。私自身も蕎麦アレルギーで悩んだ事がありまして、そのツラさを経験しております。ホットラインの設置を目指して活動を続けます。



専門医の方々からも「結果的に大事に至らなくても、まずは連絡相談を貰えた方が、対応が遅れた状態で来院されるよりも良い」と伺いました。

私自身も蕎麦アレルギーで悩んだ事がありまして、そのツラさを経験しております。ホットラインの設置を目指して活動を続けます。

触知図について 調べると さまざまな効果に 気付きました



駅や区役所入り口付近などに設置されている触知図(しょくちず)は、視覚障がい者が利用する地図で、面・線・点・点字等の地図情報がボードや紙に凹凸で表現されていて、それを触る事で情報を得ることが出来ます。ある企業さんにお伺いしたところ、固定設置型のみではなく、携帯できるパンフ

レット形式も普及し始めているとのこと。横浜市瀬谷区などは防災福祉マップを弱視者向けに白黒でコントラストを強くして触知図で作成したところ、通常晴眼者向けの防災マップに比べて余分な情報が無いので、視覚障がい者だけでなく高齢者にも評判だったそうです。

美術館などで、立体絵画や模型を活用した触れる展示なども増えてきました。触知図の美術館や博物館での活用は、晴眼者にも新たな鑑賞視点による気づきがあるそうです。

今年夏には板橋区立美術館で、視覚障がいを持つ方も楽しめる展示会を企画中です。また、マップに特化したものは触知図でなく触地図と書かれる事もあります。